

山形大学

校友会 会報



ご挨拶

—自ら変わる大学を目指して—

今年の4月から校友会の会長に就任しました。山形大学学長の小山清人です。

私は、昭和43年に山形大学に入学し、卒業後も山形大学で教員としてお世話になっています。

学生の頃は、学寮に入り、自転車で小白川キャンパスまで通っていました。アルバイトもモミの木米菓や山形ビルサービスなどでお世話になりました。当時は、70年安保に向けて学生運動が盛んな頃でした。私自身もクラス委員として、学長会見などのセットにも携わりました。

2年生から米沢に移り、白揚寮に住まいを移しました。バイトも米沢織物関連、高畠のブドウの輸送、家庭教師などでした。この頃は米沢市民としての生活でした。

4年生から研究に夢中になっていきました。修士、助手、助教授と研究に没頭していました。今考えたら社会からの隔離状態でした。

約20年後に、教授になって、地域の人々との交流が再び始まりました。学生を引き受けに警察に行ったり、県や市の審議会に出たりしました。図書館分館長、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー長、工学部長となり、ますます地域との密着度が上がっていきました。

山形大学校友会会长 小山 清人
(山形大学長)



7年前に、理事として、社会連携、教育、校友会などを担当させていただきました。

学長になって、じっくり大学経営をやりたいと考えていましたが、なかなかそうはさせてくれません。国立大学は法人化後10年が経過したにもかかわらず、全然変わっていない、社会の要請に応じていないとの声をいただいている。企業的な経営をし、「学長のリーダーシップのもとに大学を大きく改革すべし、そうでない国立大学は自然淘汰するのもやむを得ない」との文部科学大臣の言葉です。予算配分方法を大きく変えることで大学改革を迫ってきています。しかし、山形大学は歴史と伝統があり、プライドもあります。大きな改革には多くの困難も伴います。

外圧によるのではなく、自分達で社会に有用な学生を輩出することをもう一度原点から考え直しているところです。「卒業生から山形大学で学んで本当に良かった」、「社会から山形大学があって本当に良かった」と言っていただける大学を目指して、自ら変わる大学として努力をしています。校友会の皆さんにもご理解とご協力をよろしくお願いします。

山形大校友会について

山形大校友会は、山形大学の在学生、卒業生、教職員、退職者及び本会の趣旨に賛同いただいた皆様を会員とし、平成18年12月に設立されました。

本会は、山形大学の発展に寄与するため、学生の学業及び課外活動等への助成並びに全学的なキャンパス間の交流活動に支援を行うとともに、会員相互の親交を図り、「山形大学コミュニティ」の醸成・強化に資することを目的とする全学組織です。

以下に、平成25年度において本校友会が支援を行った各事業について紹介します。

山形大学グローバル化支援

次の各事業を実施し参加学生に支援金を贈呈しました。

これによって、現地での学生との交流やホームステイ等を通して異文化に対する理解を深め、コミュニケーション能力を高めるとともに、留学や国際的な研究活動への意欲の向上を図りました。

大学間交流協定大学への短期派遣留学生校友会支援事業

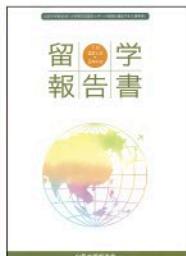
山形大学短期留学生派遣制度により次の4つの国・地域の7つの大学間交流協定大学に留学した10名（人文学部3、地域教育文化学部3、工学部4）の派遣学生に対して支援金を贈呈しました。

コロラド州立大学、テキサス大学アーリントン校、オクラホマ大学（以上、アメリカ）、マン彻スター大学（イギリス）、ブリヤト大学（ロシア）、ビルニス大学（リトアニア）、銘傳大学（台湾）。

また、後輩学生への参考資料とすべく、平成22年度から24年度までの短期派遣留学について取りまとめた『留学報告書』を作成しました。



オ克拉ホマ大学（アメリカ）留学時の
杉本勇貴さん（工学部：左）



留学報告書

学術交流協定校への超短期学生派遣プログラム

平成26年3月18日から27日の日程で、大学間交流協定校であるカトリカ大学（ペルー）への派遣学生10名（人文学部2、地域教育文化学部2、工学部6）に支援金を贈呈するとともに現地での移動に係るバスの借上げ代等を支援しました。



グローバル化に向けた授業への修学支援

平成25年8月において、11日間にわたってラトビア、エストニア、フィンランドでの研修を行った学生10名に支援金を贈呈しました。



世界遺産タリン旧市街を背景に



ラトビア大学でのさよならパーティー

グローバル化に対応するための修学支援 「国際理解のためのサマースクール」

平成25年8月の忠北大学校農業生命環境大学（韓国）でのサマースクール及び9月のモンゴル国立農業大学（モンゴル）でのサマースクールに参加した16名の学生に支援金を贈呈しました。



忠北大学校農業生命環境大学



モンゴル国立農業大学

博士課程学生研究発表奨励事業

9月～12月にかけて、8つの国・地域（アメリカ、インド、台湾、フランス、イタリア、トルコ、イギリス、中国）で開催された国際学会に参加し発表を行った大学院理工学研究科学生16名に支援金を贈呈しました。



就職活動支援

学生中心に行う優良企業訪問への支援

- 平成25年9月に4日間の日程で企業研究バスターを実施し、82名の学生が参加しました。
- 平成25年11月から26年1月にかけてキャリアサポーターが首都圏を含む企業12社を訪問し、各企業に勤務する山形大学の先輩や採用担当者のお話を伺うことによって実際の就職活動で必要なことを学びました。
- 企業訪問後には「企業訪問報告書2014（挑戦－今、挑戦すべき企業－）」を作成し、後輩学生に情報提供しています。



企業訪問



「企業訪問報告書2014」に掲載された参加学生の皆さんからの就活一言アドバイスを紹介します

- 「やっておいたほうがいいかな？」はすぐにやる。
- メンタルとフィジカルが元気であることが大切だと思います。
- 色々な企業を見る」「積極性」自信を持ってやり抜いて下さい。
- 何でも一生懸命にやって、本気で生きた大学生活にしてください。大学生活という時間は、皆がその先の人生を良いものにするために、高い金で買ってるんです。惰性で生きて後悔しないように。
- 広い視野を持ち、可能性を限定しない。
- 常に優先順位を考えながらスケジュールを立てることが大切。
- 私はまだ就活ではないですが、積極的に行動する事が大切だと思いました。
- 人と人とのつながりを大切にしてください！
そして何事も早めに行動することをオススメします。
- 人に会う就活をしてほしいと思います。その出会いは必ず自身の成長につながります。
- 私も就職活動はまだですが、なるべく早めに意識を持って、準備を進めていこうと思います。
- 私もいよいよ就職活動が始まりますが、今回の経験を活かして自分からどんどん動いていこうと思います！
- できるだけ早く、自分の足で情報を稼ぐことが大事だと思います！
- 都会の大きな企業であっても、地方の学生を採用したいと思っているようです。山形大学生も、都会の学生に負けずに物怖じせず、大企業に挑戦してほしいです。
- これから私も就活が始まります。企業訪問をして、諦めず、ポジティブに頑張ることが大切だということが分かりました。共に頑張りましょう！！

・私も皆さんと同じく就活生ですが、くじけず前向きに、コツコツとやっていきましょう！

- 就職活動は「出会い」から始まります。
自分にあった企業・働き方には、行動あるのみ！
多くの企業の方は、企業訪問に好意的です。
実際に足を運んで、とにかく多くの企業・人と交わりましょう。
- ・新卒の就活は、一生に一度のもの。
後悔のないキャリア選択をしてください。
- ・就活は、受験と違い“絶対的な解”がありません。だからこそ、企業や人との出会いにたくさんの無限の夢や希望を感じワクワクできます。

「自分にとってのいい企業」をしっかりと見極めて、素晴らしい出会いを果たしてください。

「業界研究セミナー」並びに「OB・OGフォーラム」支援

- 平成25年8月8日に「OB・OGフォーラム（キャリアカフェ）」を開催し、民間企業10社から14名の山形大学OB・OGに参画いただき、46名の学生との座談会を実施しました。
- 平成25年10月12日に米沢キャンパスを会場に「OB・OGと語る会（企業研究会）」を実施し、23の企業・事業所、47名の学生及び20名の保護者が参加しました。
- 76名の学生が平成25年7月18日に適性検査テスト「R-CAP」を受験し、解説会を8月8日に実施しました。



OB・OG フォーラム

首都圏開催合同企業説明会への参加と東京サテライト案内

平成26年1月10日から11日にかけて約60名の学生が山形大学東京サテライト紹介及び合同企業説明会「マイナビ就職EXPO」に参加しました。校友会からは参加するためのバス借り上げ代等の支援を行いました。東京サテライトの利用方法を説明



合同企業説明会

修学・課外活動支援

ビーチサッカー大会 in 庄内

由良地域協議会、由良温泉組合、由良観光協会等の協力を受け、平成25年9月21日（土）に小白川キャンパス、工学部、農学部から12チーム、約100名の学生が会場である由良海岸に集結して開催されました。昼食には山形名物の芋煮やおにぎり等も提供され、参加者相互の交流を大いに深めることができました。大会は工学部から出場の「真夏のタンクトップ男子チーム」が優勝を飾りました。

また、目的の一つとしていたクリーン作戦として、大会の前後には参加者全員で海岸清掃等作業でも汗をかきました。



各キャンパス大学祭への支援

キャンパス間シャトルバスの運行や校友会の広告掲載等、3キャンパスで開催された大学祭に対しての支援を行い、大学祭の活性化や大学としての一体感を高めることに貢献するとともに、平成23年度から「キャンパス合同企画」を実施し、学部を超えた学生間の交流がより深いものとなりました。大学祭は次により盛大に開催されました。

- ・小白川キャンパス：八峰祭
平成25年10月19日～20日
- ・米沢キャンパス：吾妻祭
平成25年10月12日～14日
- ・鶴岡キャンパス：鶴寿祭
平成25年11月3日～4日



吾妻祭

山形大学専用シャトルバスの運行事業

サークル活動への参加等のため、米沢キャンパスから小白川キャンパス間は18往復が運行され延べ241人が、鶴岡キャンパスから小白川キャンパス間は4往復が運行され延べ78人が利用し、学生のキャンパス間交流の活性化に貢献し、学部を超えた学生間の交流がより深いものとなりました。

また、平日、小白川キャンパスと山形駅の間を運行する山形大学専用シャトルバスを一部利用したことにより、地域への山形大学の広報にも繋がりました。

公認サークルへの支援

全国大会等に出場した陸上競技部、和道流空手道部、女子バスケットボール部、水泳部、トライアスロン部、小白川ビリヤードサークル、少林寺拳法部、女子サッカー部、剣道部、自動車部の10団体（延べ14大会）に遠征費の一部を支援するとともに、スノーボード、ラインテープ等、課外活動のための用具の購入にも支援しました。



台湾での国際大会に出場した女子バスケットボール部



日本学生トライアスロン選手権で力走する照井雄大さん（右）

山形大学雪合戦大会支援

平成26年2月8日に工学部グラウンドを会場に、11チーム（小白川4（職員チーム1含む）、米沢7）延べ107人ほどが参加し、会場には米沢市長（代理）や米沢工業会理事長はじめ多くの観客もつめかけて実施され、工学部から出場の「チーム中ボスB」が優勝を飾りました。

また、大会に先立ち、2月1日には、参加チームへの試合ルールの共通理解を深めるため、工学部から実行委員の学生が小白川地区へ出向き、地区的参加チーム代表者とともに審判講習会を実施しました。



音楽芸術コース企画による講習会及び模範演奏会

平成25年9月2日から4日まで、パリ高等音楽院からオリヴィエ・シャルリエ教授を講師に迎え、やまぎん小ホール・文翔館講堂ホールを会場として公開講座が開催され、受講者14名と聴講者50名が参加しました。校友会からは、講師、通訳者への謝金、滞在費等の一部を支援しました。

参加した学生にとっては、名演奏家の実際の音を間近で聴くことで貴重な体験を得られるとともに、音楽、技術の問題点が明らかになりこれからの研究活動にも多大な示唆が与えられました。

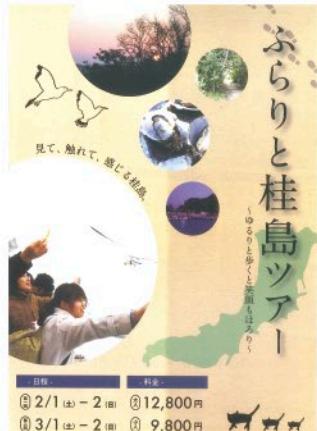


ヴィヴァルディ作曲「四季」より「春」の演奏指導

大学・社会活動支援

東日本大震災復興支援ボランティア派遣事業支援

- ・30名を超える山形大学の有志学生が宮城県の桂島において、住民と協働しながら実施している観光再生ツアーのマーケティングの一環として、ポスター・チラシを作製し、ツアーアの成功に貢献しました。
- ・子ども支援で国際的に知られるNGO Plan International の日本支部であるNGO プラン・ジャパンから講師を招いての講演会を実施し、被災地支援の実態を学ぶことによって、今後のボランティア活動の意欲向上に貢献しました。



観光再生ツアーでの学生による
プレゼンテーション

科学で山形盛り上げ隊への支援

- ・東日本大震災復興支援事業として、被災地における科学体験イベント「科学で東北を盛り上げ隊!@石巻」(9月21日、2月9日)を実施し、科学実験を通して被災地の子どもたちに元気や笑顔を与えるとともに、科学についての興味・関心を高める機会を提供しました。
- ・「夏だ!科学体験教室(イオンモール三川)」、「科学・理科実験教室inキャンパスイノベーションセンター東京」など県内外のイベント等に参加して科学体験教室を実施し、科学についての理解・関心を高めることができました。



校友会からは学生らが移動するためのバスの借上げ代等を支援しました。

会員相互の親交を図る事業

山形大学卒業生講演会の開催

平成25年12月14日に、ホテルメトロポリタン山形を会場に山形大学卒業生、在校生、教職員を対象に、『卒業生の海外活動』をテーマとした、シンポジウム形式での講演会を開催しました。この講演会は医学部看護学科の同窓会である樹氷会が中心となって実施したもので、4人の卒業生(医学部看護学科卒2、工学部卒1、大学院農学研究科修了1)が1人1人海外での活動の経験を紹介し、地域に根ざした海外での活動の重要性を実感するとともに、母校である山形大学への愛着心を再認識する貴重な機会となりました。



海外での経験を発表する
坂川奈央さん(医学部
看護学科平成13年度卒)

卒業生等による学生支援体制の整備

- ・「卒業生人材ネットワーク」の構築を目指し、校友会は次のような5つの事業を実施しました。
- ・各同窓会の理解と協力を得るために、山形大学各同窓会及び支部総会等(18ヶ所)に出席し、校友会のPRと情報交換を行いました。
- ・25年12月21日に第2回各同窓会東京(関東)支部との情報交換会を開催し、各同窓会と校友会との協力関係の一層の強化を図り、併せて山形大学の発展に貢献することを目的として「山形大学同窓会・校友会首都圏ネットワーク」を設立しました。
- ・山形大学東京サテライトとの共催により、平成26年3月1日(土) キャンパス・イノベーション・センターを会場に山形大学OB・OGセミナーを開催しました。
- ・新たな広報誌として「校友会NEWSLETTER No.1」を発行しました。主に新卒者向けの内容で構成され、平成25年度学位記授与式において卒業生全員に配付しました。
- ・会員であることを証するため、新たに校友会バッジを作製し、卒業生会員に配付しました。

新入生保護者の皆様と山形大学との交流会

平成26年6月28日に小白川キャンパスにおいて「平成26年度新入生保護者の皆様と山形大学との交流会」を開催しました。この交流会は、新入生の保護者の皆様相互、また、保護者の皆様と教職員とが親睦や交流を深め、大学運営の実情や本学の教育研究等について理解いただき、本学をより身近な存在に感じてほしいとの思いから開催しているもので、6回目となる今回は校友会支援事業として開催し、全国各地から約200名の方々にご参加いただきました。

地域教育文化学部音楽芸術コースの学生による「大学歌」及び「学生歌みどり樹に」の演奏から始まり、小山清人学長の挨拶の後、本学の教育・研究紹介として、千代勝実基盤教育院教授による講演『基盤教育について』、新入生6名による授業紹介『現役山大新入生による基盤教育科目レポート』、小山浩正農学部教授による講演『生き物たちの生態を通して、僕が学生さんに伝えたいこと』が行われました。

いただいたアンケートには、「山形大学独自の基盤教育の大切さと重要性がよくわかった」、「息子を安心して預けられます!」などの声が多く寄せられました。

また、終了後に行われた保護者の皆様と各学部のアドバイザー教員による懇談会では、保護者の皆様からは学生生活や就職・進路等について多くの質問が出るなど、大変有意義な1日となりました。



小山学長の挨拶



「大学歌」及び
「学生歌」の演奏



学生サークル「四面楚歌」
による笠回し



学生による発表

山形大学校友会への入会について（申し込みのご案内）

-山形大学校友会に未だ加入されていない卒業生の皆さんへ-

本会の趣旨にご賛同のうえ、別紙「払込取扱票」へ必要事項をご記入いただき、「郵便振替」によりお振込み願います。
会費の納入により入会申込みの完了とさせていただきます。

会員となられた方には定期的に校友会会報（メールマガジンを含む。）や山形大学の情報誌をお届けし、折々に山形大学の現況をお伝えしております。

1. 会員：生涯会費を納入いただいた次の方々です。
 - (1) 本学の学生（保護者の場合を含む）
 - (2) 本学の卒業生
 - (3) 本学の役員及び教職員（退職者を含む）
 - (4) 前項以外の本学に関係する者
2. 会費：10,000円（生涯会費）
3. 払込方法
所定の別紙「払込取扱票」によりお願いします。
なお、無い場合は「校友会事務局」へご請求いただくか、郵便局に備え付けの「払込取扱票」をご利用ください。
また、その際、次の記入例を参考に、必要事項をご記入ください。
- (通信欄記入例)
卒業生の場合：年度卒業（修了）、学部（大学院）

退職者の場合：退職時の部局名

趣旨賛同者の場合：趣旨賛同の旨表示、個人、法人名
メールマガジンの配信や各種行事等についての情報提供を希望される場合にはメールアドレスを記載願います。

4. 払込時期
入会申込みは隨時受け付けておりますが、新入生（学部、大学院共）については、入学手続き時において、諸会費等の納入と合わせて申込みをいただいております。
5. 振替口座（ゆうちょ銀行）
次の「山形大学校友会」名義の振替口座へお振込みください。
なお、専用の「払込取扱票」以外の場合は、振込手数料を、別途ご負担いただくことになりますのでご注意ください。

口座番号：02200-7-89697

【寄稿文】(1)

大学間交流協定大学への 短期派遣留学生校友会支援事業

人文学部 人間文化学科 4年 浅野 董 さん

留学先：ブリヤート国立大学（ロシア）

留学期間：2013年8月～2014年6月

私はロシア連邦ブリヤート共和国の首都ウラン=ウデにあるブリヤート国立大学に10ヶ月の間滞在してきました。シベリア地方に位置するブリヤート共和国はモンゴル風とロシア風の文化が入り混じったような風土で、ウラン=ウデの街並みや人々も一般的なロシアのイメージとはちょっと違う、個性のある街でした。留学期間はロシア語、土地、文化、人々、気候に触れているうちにあっという間に過ぎ去ったようでしたが、私の中に多くのものが残っています。この機会をくださった関係者の皆様には深く感謝しております。

向こうでは、寮の二人部屋で一緒に暮らしながらいろいろなことを教えてくださった韓国人の同居人さん、ロシア語を教授してくださいました先生方、同じグループに所属していた友人たち、ブリヤート大学の東洋学部で日本語を勉強していた生徒さんたち、寮の管理人さん、映画館のお姉さん、チタから来たおばさん、モスクワへ向かう列車の中で出会った優しいおじいさん、ウクライナへと発つマダム、寮費支払い手続きの始点と終点のお姉さん、ソチ五輪の聖火ランナーを見に来たハバロフスクのおばあさんなど、いろいろな人とお知り合いになることが出来ました。ロシアでの生活は予期できないことがたくさんあり、戸惑うこともありましたがそのどれもが良い刺激になりました。スーパーで肉を買おうと思えば皮付き骨付きで冷凍の肉塊が殆どだったり（普通はご家庭で捌くそうです）、ピザの具にひき肉とサラミと鮭という組み合わせがあったり、食べ物関係で面白いことがたくさんあったように思います。冬季休暇にはモスクワ旅行を計画し、シベリア鉄道での旅程中にコンクリートの工場と巨大な集合団地の美しい街を見て、モスクワのトレチャコフ美術館、ブーシキン美術館、そして地質学博物館を巡ってきました。この旅行は前期と後期の間の区切り、自身の言語能力の把握、そしてロシアという土地の面白さを体感できたとても有意義なものだったと思います。

今でこそロシア語を学び、楽しみ、受け入れている私ですが、中学時代から常に英語の成績が芳しくなく、大学に入るまでは外国語への関心はとても薄かったのです。第二外国語の選択をするときも、ロシア語を選んだ理由は候補の中ではほとんど見聞きしたことのない（そして英語から遠そうな）言語だと思ったから、というほど



筆者の浅野董さん

でした。ところが実際に学び始めていくと、規則的かつ効率的な語末変化文法、発音の明快さ、キリル文字の愛らしさに心洗われるようであり、折々に触れたロシアの文化にも惹かれていきました。そうして二年次にはロシアへ行ってロシア語を身に付けたいと考え始め、その秋に短期交換留学生の募集へと応募、翌年の春に留学許可が下りたときは本当に嬉しく思いました。実際にロシアに行ってみてどこが一番良かったかといいますと、当たり前のようですが周りには生きたロシア語が溢れていて、ロシア語を話して生活できることです。街中にある言葉は全てロシア語で、駅の切符売り場のおばちゃんもロシア語でまくしてます。その環境は非常に居心地のいいものでした。今現在の私が強く思うのは、外国語にも相性というものがあって、英語との相性が悪くても他の外國語との相性が全部悪いとは限らないということです。そして私のように英語が全くできない人間であっても、ロシア語を学べばロシアで生きることはできるのです。こういった姿勢は国際的に通用する英語を基軸とした学習を推奨する昨今の流れには反してしまうかもしれません。それでも自分が興味を持って好奇心を掻き立てられるような言語が生きている環境で勉強ができるという経験はそれに勝るとも劣らない貴重で価値のある経験であると私は思います。私はこのロシアで得た経験がこれから的人生にどう作用していくのかをとても楽しみにしているのです。最後に、このような貴重な機会をくださった皆様に改めて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。



ブリヤート大学の寮



ウラン=ウデ駅

【寄稿文】(2)

学術交流協定校への超短期 学生派遣プログラム

工学部 電気電子工学科 4年 佐藤雄亮 さん

派遣先：カトリカ大学（ペルー）

留学期間：2014年3月18日～3月27日

私は山形大学校友会のご支援の下、10日間日本語チーターとしてペルーへ渡航しました。ペルーは南アメリカに位置しており、在学したカトリカ大学はその首都のリマにあります。

リマでの生活は基本的にカトリカ大学の学生とともに行動しました。キャンパスは一日では到底見て回ることができないほど大きく、昼休みや放課後はサークル活動が活発になり、まるで毎日オープンキャンパスが行われていると誤解するほどたくさんの学生で賑わっていました。僕たちはそのうちのひとつ教室を借りて、現地学生と共に国や大学についてのプレゼン、自己紹介を通して、楽しく交流しました。

日本語教室では、日本語のレベルに合わせてグループに分け、テキストに沿って楽しく日本語を勉強しました。元々日本文化に興味を持った学生が沢山いたので、皆すぐにうちとけていきました。現地の学生とは英語を使って話していましたが、中には母国語のスペイン語を教えてもらい、片言どうしの日本語とスペイン語で会話をする学生もいた

のがとても可笑しかったです。

大学外では、ナスカの地上絵へ行きました。片道バスで7時間もかかりましたが、広大な景色と大自然に囲まれ、地上絵の規模の大きさに疲れを忘れるほど感動しました。その他にも噴水ショーやお墓ツアー、サルサホームパーティーなど、沢山のイベントに参加し、とても有意義な10日間を過ごすことができました。この貴重な経験を通して学んだことを生かし、これから更に英語力を身に付け、国際的な主体性を持って学生生活を送りたいと思います。



「大学間交流協定大学への派遣留学生校友会支援事業」支援金授与式

平成26年度、山形大学派遣留学制度により海外の協定大学に留学する皆さんへの校友会支援金の贈呈式が平成26年7月31日に、校友会会长である小山学長、大場理事、安田理事らの出席のもと行われました。

はじめに小山学長から一人一人に支援金の目録が贈呈された後、酒井順一校友会副会長から、日本人学生の内向き志向が呼ばれる中、健康に留意し山形大学の学生であるという自覚と誇りを持って海外の様々な人たちと触れ合い、国際人

として羽ばたく素地となるよう実り多い留学にしてほしいという激励の言葉が贈されました。

その後、学生一人一人から留学に向けての抱負が述べられ、小山学長からも「人的ネットワーク」を作ってくることが大事というアドバイスがありました。

山形大学の代表として健康で実りある留学生活にしていただきたいと思います。行ってらっしゃい！



蔵王会

山形大学医学部医学科同窓会は、第1期生が卒業（昭和54年）した10年後の平成元年2月に正式発足し、同年12月には「山形大学医学部同窓会誌」の創刊号が編纂されている。医学部創設当時の回想を交えた同窓会誌発刊を祝う特別寄稿のほか、教室近況報告、医学部教員名簿、在校生名簿などが掲載されている。「蔵王会」の名称は、平成7年に公募により決定された。

医学部創立30周年にあたっては、嘉山孝正学部長（当時：現在山形大学学長特別補佐・国立がん研究センター名誉総長）のもと医学部同窓会館の設立を具体化する事業に取り掛かり、同施設は平成18年6月に完成して「山形医学交流会館」と命名され、医学部同窓会員や医学部教職員はもとより外部の研究者や医療関係者にも開放され、生涯教育や地域医療の発展の場として活用されている。

平成19年9月の同窓会理事会において、当時の嘉山孝正同窓会会长の発案により、同窓会誌「蔵王会」に代わって学生が主体となって作成する同窓会新聞「蔵王」を年2-3回発刊することが決められた。新たに結成された学部公認サークルの新聞部には、熱意にあふれた15人の学生が参集し、悪戦苦闘の末、同年12月に「蔵王」創刊号が発刊された。同紙の1面を飾ったのは嘉山孝正学部長（当時）の「山形大学医学部の創立・近況・展望」と題し、山形大学医学部の将来像を精密に分析し、実行プランを示した論説であった。新聞の発刊は、新聞部学生の努力の甲斐あって平成26年8月現在で16号まで発刊されている。

蔵王会では、これまでその他にも種々の事業を行ってきた。優れた業績をあげた学外会員に対する蔵王会賞の授与、全国を4ブロックに分けての支部総会の開催、会員名簿の刊行、教授の退

職記念祝賀会のサポート、山形大学医学部の研究プロジェクトの支援など多岐にわたっており、日本の医学の発展に貢献するものとなっている。平成23年3月の東日本大震災に際しては、会員の皆様から義援金を募り、かつ当会の支援もあわせて、被災にあわれた会員の方々に支援した。また、昨年、医学部創立40周年記念事業をサポートした。

以上、同窓会の歴史を紐解いてきたが、第1期生から数えて3652人（平成26年3月現在）の卒業生が日本の医療を支援、発展させ世界の医療のために貢献していることは、医療人の育成を目的として設立、活動している山形大学医学部医学科の大きな誇りとなっている。

（会長 山下 英俊）



蔵王会 第5回支部総会(関東地区)



『縁むすび』贈 會田 雄亮
(山形医学交流会館内に展示)



山形医学交流会館での講演会の様子

一般社団法人米沢工業会

《米沢工業会とは?》

山形大学工学部および山形大学大学院理工学研究科の卒業生、修了生および教職員からなる一般社団法人、即ち同窓会の組織です。

米沢高等工業学校当時の大正13年（1924年）に任意団体として創設（初代会長は柴田才一郎米沢高等工業学校校長）され、昭和48年（1973年）12月に社団法人を設立し、平成25年（2013年）8月には一般社団法人に移行しました。その間、母校創立80周年記念事業（平成2年）への協力（青春の詩碑建立、記念植樹、祝賀会など）、母校創立100周年記念事業（平成22年）への寄付金協力（100周年記念事業・100周年記念会館建設、記念式典・祝賀会など）を行っています。

本部事務局は、米沢キャンパス内の百周年記念会館1階にあり、活動拠点としては全国26支部があります。

《どんな活動事業を行っているのか?》

1. 教育研究・国際交流活動に対する支援

理工学研究科学生及び若手教員の国際学術会議発表助成、技術部員の研修助成、私費外国人留学生への奨学金支給

2. 工学部学科諸行事、学生研修活動への支援

3. 卒業記念・入学記念慶祝

4. 支部及び学科会強化事業、会員交流支援

5. 同窓会としての活動事業

創設時の会員数は601名でしたが卒業・修了者の方は既に43,759名を数え、全国で活躍し、ダッコちゃん、リカちゃん人形の生みの親で株式会社タカラの創業者である佐藤安太氏をはじめ、有名企業のトップはもとより、産業界・教育界やあらゆる分野で重責を担っております。

また、4月から山形大学学長に就任されました小山清人氏もOBの一人であります。

米沢工業会は、頼りになるパートナーとして、「青春」の心で母校の発展に寄与して参ります。母校の発展が会員の皆様の誇りになり、「楽しく 喜ばれて 誇りを持って 100年を幸せに生きる」ことが実現できます。

米沢工業会は本年、創設90周年を迎え10月10日（金）にグランドホクヨウ（米沢市）にて、記念事業を行いますのでご紹介いたします。

《創設90周年記念事業》

《記念特別講演》 13:30~15:45

◇「お客様から真の満足をいただくための原点回帰」

アキレス株式会社 代表取締役社長

伊藤 守 様（応用化学科 昭和51年卒）

◇「真のグローバル企業に向けて」

株式会社ブリヂストン 代表取締役COO

西海 和久 様（修士高分子化学専攻 昭和50年修了）

《記念式典》 16:00~16:30

《記念祝賀会》 17:00~19:00

（理事長 山崎洋一郎）



重要文化財旧米沢高等工業学校本館 青春の詩碑

山形大学大学歌とともに現在も歌い継がれている学生歌「みどり樹に」。

昭和33年にこの歌を作曲された橋場富藏さん（昭和36年3月教育学部特設音楽科卒）から、作曲された当時の様子をご寄稿いただきましたので紹介します。

特別寄稿 橋場 富藏さん

学生歌が作られたころ

「熊出るか？」入学して間もない頃、北海道出身者ということで寮の先輩方からよく聞かれたのがこれだ。私は、昭和30年に北海道の田舎の高校を卒業して特音に入学したが、当時は、テレビも普及しておらず、列車での移動には時間がかかり観光という概念もない時代だった。入学したばかりの私にとって山形の生活は、珍しさと驚きの連続だったから先輩方も同じ気持ちだったに違いない。

昭和30年秋、最初の学生歌の募集があった。鈴木実氏の「みちのくの」に曲を付けるというものである。動機が不純で申し訳ないが、賞金（5千円=1か月の生活費）が魅力で一年生の私も“駄目元”で応募し、入選してしまった。鈴木氏については、全く存じ上げないが、後年、「みちのくの」は大変格調の高い詞であることに気付いた。反面、曲はこの詞の心も雰囲気も音楽に体现していない。当時、この詞に相応しい曲が付けられていたならば別の歌われ方をしたのではないか、と申し訳ない気持ちで一杯である。

33年には、前期に詞（「みどり樹に」）を決め、後期に曲を決めるという2回目の募集があった。菅原威氏の「みどり樹に」では、若人の夢や希望が「世界の果てまで・・・」を強調している。グローバル化の現在に通じる慧眼である。この時の曲作りは、詞の

雰囲気を旋律にすること、歌いやすい旋律であること、ひたすら“歌われる歌”を目指した。

山形大学の大学歌・イメージソングは、若いエネルギーを刺激する歌だ。他大学への波及があってもおかしくない。これらの歌がこれからもいろいろな場面で歌われて、人の繋がりに役立つのであればこれに過ぎる幸せはない。



2014年8月 自宅前で



大学3年生の夏休み郷里にて



大学3年次「木曜演奏会」に出演した仲間と
(後列左端が橋場さん)

山形大学学生歌「みどり樹に」

作詞：菅原 威
作曲：橋場 富藏

- 1 みどり樹に 風がながれるように
さわやかな 若人のうたごえ
遠く海を越えて
世界の果まで ひびくよ
われらの歌う 口唇に
友情の血潮は あふれる
- 2 大地から 草が萌えるように
たくましい 若人の生命は
高く峯を越えて
世界の果まで のびゆく
われらの輝く ひとみには
平和のねがい みなぎる
- 3 大空に陽が 輝くように
かぎりない 若人の夢は
はるか雲を越えて
世界の果まで とどくよ
結んだ腕で 新しい
未来を築く われらよ

* 学生歌「みどり樹に」は、
YouTubeでもお聴きいただくことができます。

校友会事務局から

25年度収支報告

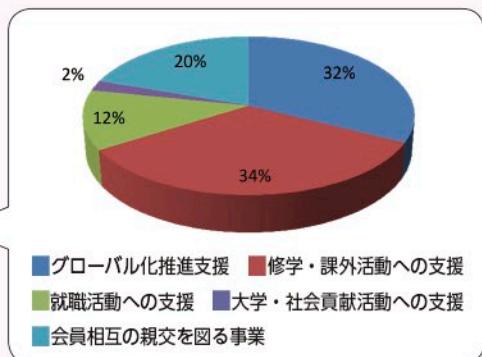
1. 収入

区分	決算額(円)
会費収入	21,390,000
雑 収 入	129,288
合 計	21,519,288

2. 支出

区分	決算額(円)
事業費	17,682,851
運営費	3,303,187
合計	20,986,038

(26年度へ繰越：533,250円)



平成26年度事業計画

1. 理事会の開催

第16回：平成26年6月19日

議題：平成25年度事業報告及び収支決算

平成26年度事業計画及び収支予算 等

(主な審議内容)

今年度の支援事業として次の25事業を決定しました。

- ① 学生中心に行う優良企業訪問への支援
- ② 科学で山形盛り上げ隊への支援
- ③ 「業界研究セミナー」並びに「OB・OGフォーラム」支援
- ④ 首都圏開催合同企業説明会への参加と東京サテライト案内
- ⑤ ピーチサッカー大会 in 庄内
- ⑥ 卒業生等による学生支援体制の整備
- ⑦ 大学間交流協定大学への派遣留学生校友会支援事業
- ⑧ 学術交流協定校への超短期学生派遣プログラム
- ⑨ 各キャンパス大学祭への支援
- ⑩ 公認サークルへの支援
- ⑪ グローバル化に向けた授業への修学支援
- ⑫ 博士課程学生研究発表奨励事業
- ⑬ 大学間交流協定事業促進及びグローバル化に対応する修学支援「国際理解のためのサマースクール」

- ⑭ 新入生保護者の皆様と山形大学との交流会

- ⑮ 山形大学卒業生講演会

- ⑯ 山形大学雪合戦大会支援

- ⑰ 大学歌の普及活動支援

- ⑱ オペラを核とした《附属学校との協働》及び《高大連携事業》の推進

- ⑲ 山形大学東京サテライト 卒業・修了制作

- ⑳ 山形大学専用シャトルバスの運行事業「CAMBUSプロジェクト」

- ㉑ 校友会推薦図書コーナー「後輩には是非、こんな本を読ませたい！」

- ㉒ 実践教育プログラム合宿型交流ワークショップ

- ㉓ 山形大学実践教育プログラム 長期インターンシップの実施等

- ㉔ 山形大学校友会大学院学生表彰制度

- ㉕ 高齢化率の高い離島における継続した東日本大震災復興支援事業

2. 会報（No.4）の発行

昨年に引き続き、会報（No.4）を9月に発行します。

3. 「山形大学各同窓会東京（関東）支部と山形大学校友会との情報交換会」の開催

第3回となる情報交換会は12月に東京サテライトを会場に開催します。

4. 「各同窓会及び校友会と山形大学との情報交換会」の開催

期日：平成27年2月13日（金）

山形大学卒業生の「人財バンク登録事業」を開始しました。

本学の学生に対して講演や相談・就職アドバイス等を行っていただくため、「人財バンク登録事業」を新たに開始しました。

本学の各同窓会及び各学部に候補者の推薦をお願いし、登録いただいた卒業生の皆様に本学の学生に対して講演や相談・就職アドバイス等を行っていただくという制度です。

山形大学と卒業生の皆様との繋がりがますます強くなることが期待されます。

役員紹介

(平成26年7月1日現在)

役職	氏名	推薦部局等	役職	氏名	推薦部局等
会長	小山清人	山形大学長	理事	山崎洋一郎	一般社団法人米沢工業会（工）
副会長	酒井順一	地域教育文化学部同窓会	ク	齊藤博行	鶴窓会（農）
ク	神戸士郎	工学部	ク	大場好弘	山形大学理事
理事	小池信明	人文学部後援会	ク	國方敬司	人文学部
ク	丹政樹	地域教育文化学部後援会	ク	竹田隆一	地域教育文化学部
ク	丹野憲昭	理学部後援会	ク	栗山恭直	理学部
ク	栗野久造	医学部医学科後援会	ク	山川光徳	医学部
ク	会田輝昭	医学部看護学科後援会	ク	角田憲一	農学部
ク	上村勘二	工学部後援会	ク	石井滋	事務職員
ク	佐藤和弘	農学部後援会	ク	岩城功希	学長推薦
ク	長沼龍平	ふすま同窓会（人文・理）	監事	丸山俊明	
ク	加藤丈夫	蔵王会（医・医学科）	ク	寒河江良三	
ク	佐藤和佳子	樹氷会（医・看護学科）			

山形大学大学歌

作詞：石先 麻美・難波 千鶴
作曲：大谷 靖夫
編曲：中村 康就

山形大学大学歌は、平成21年に創立60周年を記念し、歌詞の募集を行い、当時地域教育文化学部4年在学中の石先麻美さんと難波千鶴さんの作品が選ばれました。作曲は山形市出身の作曲家大谷靖夫氏に依頼し、平成22年3月に本学大学歌として制定されました。



大学歌
ダウンロードは
こちら

大学のホームページからも
ダウンロードができます。

- 1 春風に 希望をのせて
桜の光 仰ぎ見る
若葉の緑 きらめいて
力みなぎる 若き瞳
決意を胸に 手をつなぐ
我らが学び舎 山形大学
- 2 知を深く 真理を求め
語りあかそう 集い来て
星のまたき 想い馳せ
学びを拓く 強き瞳
己を信じ 進みゆく
我らが学び舎 山形大学
- 3 はるかなる 未来を照らし
流れる川の 絶え間なく
日々を彩る 雪模様
次代を担う 明き瞳
夢を抱いて はばたこう
我らが学び舎 山形大学

山形大学校友会では、事業の一環として、大学のイメージアップと4キャンパス一体感の醸成を目的として大学歌の普及活動に対しての支援を行っています。なお、大学歌はYouTubeでもお聴きいただくことができます。

「大学祭」のご案内

校友会では今年も大学祭を支援します。各キャンパスで次のとおり開催されますので、皆様、是非この機会にご友人とお誘い合わせの上、お越しください。

小白川キャンパス「八峰祭」

平成26年
10月18日(土)～19日(日)



米沢キャンパス 「吾妻祭」

平成26年
10月11日(土)～13日(月)



鶴岡キャンパス 「鶴寿祭」

平成26年
11月2日(日)～3日(月；祝日)



山形大学校友会メールマガジンの配信を開始しました。

校友会では、山形大学や校友会に関するさまざまな情報を届けするため、メールマガジン「山形大学校友会“みどり樹通信”」の配信を開始しました。

特に、校友会会員である本学学生の皆さんで購読を希望される場合は、校友会事務局までメールアドレスをお知らせください。配信いたします。

また、卒業生の皆様からも山形大学や学生への応援メッセージ(200字以内)や学生時代の思い出等についてのご寄稿(800字以内)を募集しておりますので、お寄せいただける場合には校友会事務局までお知らせください。

山形大学エンロールメント・マネジメント部
山形大学校友会事務局

〒990-8560 山形市小白川町1丁目4-12
TEL: 023 (628) 4867 FAX: 023 (628) 4185
E-mail: ykouyu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

〈校友会ホームページ〉 <http://www.yamagata-u.ac.jp/ykouyu/>